

防災意識と対策



山本敬介議員

1 防災意識と対策

問 放射能対策を含む、地域の防災意識について伺います。

中村村長 村では避難者の受け入れや支援、村内4か所での放射線量測定を行っています。受入れの予算措置など、これまでどおり続け、防災意識の向上に努めます。

問 防災の情報伝達、原子力災害に対する村独自のマニュアルの検討、安定ヨウ素剤の備蓄について、進捗状況を伺います。

中村村長 マニュアルは必要だと思いません。安定ヨウ素剤は、副作用の問題もあり、購入に至っていません。

伝達方法は、現在は高齢者や独居の世帯には、村の担当、消防、社会福祉協議会で連携して対応しており、地域の方にもっと詳しい説明をしていきます。

2 ヘルメットの着用を

問 防災の基本は、まず自分の身を守ることです。ヘルメットの備蓄について伺います。

中村村長 20個備蓄しており、産業建設課職員は全員個人用のを所有しています。訓練に対する配慮が不足していたと反省しています。備蓄・資機材は計画的に準備するよう努めます。

問 冬に運用できない避難路は意味がないと思います。今後の運用方法を伺います。

中村村長 冬期間の避難路の使用は想定していませんでしたが、消防等、関係機関のご意見も受けて検討します。

4 薪ストーブ設置助成金

問 薪ストーブと薪利用の助成金の実績を伺います。

中村村長 平成28年2月末現在の薪ストーブ購入と設置補助は2件で、内訳は1件目ストーブが20万7900円、設置費が22万5720円。もう1件は、ストーブが24万6240円、設置費が30万円です。また、薪の購入補助は、3件1万円です。

問 助成の要件は購入と設置それぞれ10万円以上、上限は購入が20万円、設置が30万円という

ことです。高額なストーブを買える富裕層のしか助成が受けられない、というのは問題があると思います。考えを伺います。

5 再生可能エネルギーのマスタープランは

問 プロジェクトチームによる地域内のエネルギーマスタープランの進捗を伺います。

中村村長 湯の沢温泉の小水力発電について民間企業による可能性調査が必要と聞いています。また、平成26年度から北海道立総合研究機構と沿線5市町村による協定を締結し、広く地域に分散するエネルギー資源を活用することにより、地域の振興、活性化とエネルギー自給率の向上を目的とした取組みも進められています。

6 コミュニティ・スクール

問 導入後の状況と、来年度導入予定のトママ小中学校、占冠中学校の方向性について伺います。

藤本教育長 中央小学校は平

成26年5月1日に学校運営協議会を設置して協議され、成果が出てきていると思います。このコミュニティスクールを充実させて、将来を支えていく人材の育成に繋げていきたいと考えています。

問 定住対策の遅れから、小中学校入学前にトママを離れるという方が増えています。コミュニティスクールの導入がこの危機的状況を救う一助になるように気概を持って進めてもらいたいと思いますが、伺います。

藤本教育長 統廃合については考えておりません。コミュニティスクールをなるべく早く立ちあげて、地域と学校そして住民の意見を聞きながら、今後の持続可能な教育に繋がっていきたいと思います。

問 学校は地域にとつてはインフラです。ガソリンスタンド、お店、学校、これらがないとトママの定住人口は増えません。その認識を新たにしていただきたい。再度伺います。

藤本教育長 基本的には継続して残していくための方向を模索するというところでご理解願います。